

## 会議録

会議名称	令和6年度第2回 北本市子ども・子育て会議
開会及び閉会日時	令和6年10月25日(金) 午前10時00分～午後0時3分
開催場所	北本市役所3階 委員会室2
議長氏名	会長 森田満理子
出席委員(者)氏名	森田満理子、猪野塚将、高橋典之、新島一彦、塚本三恵子 青柳恭義、醍醐隆、有田めぐみ、成塚詩織
欠席委員(者)氏名	山川英夫、加藤秀樹、木戸口友紀、古川博章 高橋めぐみ
説明者の職氏名	こども健康部保育課保育担当主査 山崎卓哉 こども健康部子育て支援課児童相談担当主査 石井伸也
事務局職員職氏名	保育課長 金子能也 保育課保育担当主査 山崎卓哉 保育課保育担当主任 青木拓 子育て支援課長 柳井志道 子育て支援課児童相談担当主査 石井伸也 健康づくり課長 加藤浩
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 あいさつ</li> <li>3 議事               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)北本市こどもの生活に関するアンケート調査結果について</li> <li>(2)教育・保育及び子ども・子育て支援事業にかかる計画値と実績値の比較について</li> <li>(3)第三期北本市子ども・子育て支援事業計画における教育・保育及び子ども・子育て支援事業の量の見込みについて</li> <li>(4)その他</li> </ol> </li> <li>4 閉会</li> </ol>
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6年度第2回北本市子ども・子育て会議 次第</li> <li>・資料1 北本市こどもの生活に関するアンケート調査結果報告書</li> <li>・資料2 教育・保育及び子ども・子育て支援事業にかかる計画値と実績値の比較について</li> <li>・資料3 第三期 北本市子ども・子育て支援事業計画における教育・保育及び子ども・子育て支援事業の量の見込みについて</li> <li>・令和6年度 北本市子ども・子育て会議委員名簿</li> </ul>

発言者	発言内容・決定事項
	<p>1 開会</p> <p>2 あいさつ 森田会長よりあいさつ</p> <p>3 議事</p> <p>北本市子ども・子育て会議条例第5条第1項の規定により、会長が議長となる。 以降、議事進行。</p> <p>会議の公開について（公開承認）</p>
議長	<p>議題(1)北本市こどもの生活に関するアンケート調査結果について事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	<p>【説明】</p>
議長	<p>事務局の説明が終わりましたので、委員の皆様から質問、ご意見等があればお願いします。</p>
青柳委員	<p>多様な居場所について次年度の計画に入れていくという話がありましたがこのアンケートの結果から具体的な事業に持っていくまではどういう流れになるのですか。</p>
事務局	<p>スケジュールとすると、このアンケートを基に計画を策定し、計画に基づいて来年度以降、予算の確保をして実施していくという形となります。</p>
青柳委員	<p>予算取りは今年度中に行うのか、それとも一年先ですか。</p>
事務局	<p>実際には一年先、ここで計画を作って来年度予算を取っていくこととなります。</p>
成塚委員	<p>今回の回収結果で有効回答率が30%、28.5%となっていますが、それは見込み通りの結果でしたか。</p>

発言者	発言内容・決定事項
事務局	<p>できれば、もっと高いと良かったです。調査方法の検討をする中でウェブ調査もありましたが、アンケートの内容的にもボリュームがあるため紙ベースで実施しました。昨年度行ったニーズ調査が40%弱。就学前の保護者が40.6%だったため、若干低めの結果となりました。</p>
青柳委員	<p>今のお話で困窮世帯があることがわかり、特筆すべき点だと思いますが、計画を立てて、来年度からいかに実施に当たるかということだと思いますが、それまでに一年あるという中で、困窮者の存在について認識はあるが一年半は手出しができません。日本財団とかWAMとか助成金を出す組織があって、例えば、日本財団に関しては、こども食堂をやりますと言ったときに、支援しますということで、将来的に行政と連携してできますかという質問事項があります。そういった時に、行政としては認識しているが、一年半待たないといけないといった中で、外部の助成金を申請して、利用して将来的に行政と結びつけるというのは、すごく都合がいい仕組みがあるなと思いますが、その辺り、どう思われますか。つながりが必要だと思います。</p>
事務局	<p>市としての予算が絡まないところでも、例えばとかフードパントリーなどすでに実施しているものもありますので、そういうのは維持しつつ、互いの協力の中で拡張とか拡大とかは考えられます。今は下のホールを使ってフードパントリーを募集していますが、やり方の検討もあります。予算付けの面で、計画書に具体的に盛り込んでいくのは難しい面がありますので、あくまでも方向性を記載する中で、できることは予算を確保したいという位置づけになっています。</p>
青柳委員	<p>そのうち予算がつくかもしれないということですが、それまでのつながりで外部との団体とうまく連携すれば、1年半のブランクが埋まるかもしれないと思いました。</p>
事務局	<p>外部の補助金とかが活用ができるのであれば、活用していただいて、市ができるかどうかは、計画の中で何年先とかに実施すると明確にはいえないところがありますが、様々な補助金の活用は進めていく方がよいと思います。</p>

発言者	発言内容・決定事項
議長	<p>議題(1)につきまして、他に質問や意見はございませんか。</p> <p>無ければ、議題(2)教育・保育及び子ども・子育て支援事業にかかる計画値と実績値の比較について、事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	<p><b>【説明】</b></p>
議長	<p>事務局からの説明が終わりましたので、委員の皆様からご質問、ご意見等があればお願いします。</p>
猪野塚委員	<p>資料2の関係、4ページ病児保育や6ページの放課後児童クラブで、計画値よりも実績値の方がかなり多くなりました。その辺の事情については、クリアできるように予算措置されているかとは思いますが、実績値が伸びているので、次回の計画にも、余裕を持たせるような計画値を乗せるのかどうか、見直しをお聞かせいただきたい。8ページで養育支援訪問事業その他要保護児童等に対する支援に資する事業について、要保護児童とはどういう方たちか、よろしければ、注釈みたいなものを入れるご検討いただきたい。</p>
事務局	<p>提供量は、本日の議題で実績をお示しし、保育の方は待機児童が出てしまっておりますが、子育て支援事業はニーズに対しての提供量は確保できている状況にあります。ただ、次の資料3で見込みの説明もさせていただきますが、見込みのところではニーズを見込んでいますので、ニーズを受けきれない体制を設定したいと考えています。提供量、確保量のページについては、次回の会議でお示ししたいと考えております。また、要支援訪問事業については注釈を入れるようにしたいです。令和7年度から、新しい事業も国から示されていますので、進めていきたいと考えています。</p>
猪野塚委員	<p>子育て支援の中で、こういう事業はより働きやすい環境を提供するものなので、お願いしたいと思います。</p>

発言者	発言内容・決定事項
青柳委員	<p>3ページの児童認定のところ、マイナスが年々増えて行っているのがあります。例えば、2号認定教育、計画値は令和6年で113名とありますが、この算出はどのようにやったのでしょうか。</p>
事務局	<p>令和元年度をベースにして、利用率と申込み率に推計児童数を乗じて算出していきました。児童数が減少するので、見込みも減少傾向となりました。</p>
青柳委員	<p>そうすると、2ページの児童数の推移で、令和2年度は計画値と実績値は1%の差でしたが、徐々に差が開き、令和6年度は10%くらいの差が出ています。児童数全体にかけ算するということでしたが、児童数の見積りが精緻でないと全てダメになります。何でこれほど誤差が開いてきたのでしょうか。</p>
事務局	<p>一つの要因として社会増、転入される方が増えたことがあります。</p>
有田委員	<p>たくさん家が建っており、訪問する家庭も増えたと感じています。</p>
青柳委員	<p>社会的なものも係数にできるのか。</p>
事務局	<p>コロナ禍の影響で、都内に住んでいた方が、千葉県、神奈川県、埼玉県に転出することが多くなったというニュースも報道されていました。北本市は地盤が強く災害に強いといわれているので、住むのにいいのかなというのも要因の一つと考えられます。細かく分析したわけではないが、総合的な要因の結果として推計よりも下がりませんでした。</p>
青柳委員	<p>3ページの2号認定の教育が増えているのは、2号認定で保育所に入りたかったけど枠に入れなかったため、幼稚園で預かり保育を使って、仕事をしているような人も入っているのでしょうか。</p>

発言者	発言内容・決定事項
事務局	<p>実際としては、北本市で待機児童が発生している中で、希望する園を選択しても入れないという状況は続いています。</p> <p>2号認定の教育の利用者について、希望する保育所に入れなかったため、幼稚園で預かり保育を利用したというデータは把握していません。2号認定の教育の利用者の中には、希望する保育所に入れなかったため、幼稚園を利用しているという方は含まれていると考えています。</p>
青柳委員	<p>ニーズ調査で保育を希望したが保育所には入れなかったという数値は把握できないのですか。</p>
事務局	<p>ニーズ調査では設問を設定していないため把握できません。2号認定は、市に申請をいただく形になりますが、1号認定は幼稚園に直接申込みをします。保育申請をして、保育が利用できなければ幼稚園を使うという流れはあります。</p>
青柳委員	<p>現場の声としてそういう状況があるということですか。</p>
高橋委員	<p>幼稚園を運営していますが、1号認定で幼稚園に入って、それでも働くということで新2号認定をとって預かり保育を使いながら6時まで預けるといのがあるので、北本市の状況で保育園とか認定子ども園の2号認定を使いたいという方は多いのではないのでしょうか。</p>
青柳委員	<p>精緻に見積もるのであれば、そういうアンケート項目があれば数字も把握できるかもしれません。</p>
事務局	<p>アンケート調査の項目の中に、幼稚園と幼稚園の預かり保育を併用している方向けに、幼稚園の利用を強く希望しますかという質問があります。今回の調査では「はい」が60%で、「いいえ」が38%でした。今回の調査だけで言えば、おおむね6割の方は意図的に選んでいらっしゃると思います。残りの38%の方に関しては、「いいえ」の内訳までは取れていないため、そこでさらに、「保育所に入れなかったからですか」というような追跡するような質問があると、保育所に入れなかったのであえて幼稚園で預かり保育を使っている割合が出てくるかと思えます。</p>

発言者	発言内容・決定事項
醍醐委員	病児・病後児保育で令和4年度から令和5年度にかけて、実績値が大きく増加していますが、この背景としてどういうことがあったのですか。
事務局	制度的なところを大きく変えたということはないです。利用に関しては委託先の北里大学メディカルセンターに直接申込が入る形になりますが、病児保育を特段取り上げて周知したということもないため、考えられることとしてはコロナ禍で利用が少なく推移し、コロナ禍が明けることで、利用者が病児保育を使い始めようという意識の変化が大きく影響しているのかと思っています。
醍醐委員	受け入れている医療機関を考えると、受入が1機関で厳しいのかなと思います。その辺についてはどうお考えですか。
事務局	利用者は急増しているが、受け入れられる年間のべ利用者数は1,250人ほどの規模がありますので、まだ、逼迫するような状況にはなっておりません。
議長	議題(2)につきまして、他に質問や意見はございませんか。 無ければ、議題(3)第三期北本市子ども・子育て支援事業計画における教育・保育及び子ども・子育て支援事業の量の見込みについて、事務局より説明をお願いします。
事務局	<b>【説明】</b>
議長	事務局からの説明が終わりましたので、委員の皆様からご質問、ご意見等があればお願いします。
青柳委員	「アウトリーチ型」とはどのようなことですか。

発言者	発言内容・決定事項
事務局	<p>保健師が自宅に伺って産後ケアなどを行う出張型の事業です。すでに乳幼児家庭全戸訪問事業もやっているため、似たような事業は行っています。あと、宿泊型は、親が寝られなくて産後鬱になるケースが増えているため、北本市としては医療機関の力を借りて宿泊型を実施し、ゆっくり寝られる環境を作っています。</p>
猪野塚委員	<p>場面場面で使われ方が変わってしまうが、本来であれば御用聞きです。呼ばれていないけど、とりあえず行ってみて「どうですか」と、そういう風に行くのが本来のアウトリーチです。保健師がとりあえずニーズのありそうなところに行く、そういったものに近いのかなと思います。</p>
事務局	<p>こども家庭庁がパブリック・コメントを実施しており、これまでは利用者の求めに応じて対応していましたが、今後は、産後ケアが必要な人には利用者からではなく、市から積極的に行ってくださいという方針が今後出される予定になっています。</p>
猪野塚委員	<p>市には色々なところから情報が入ってくるので、大変そうなお家庭には、その方から言われる前から行政として入ってケアをしていくという方法で、虐待予防のためにもできるだけ早めにケアしてあげて、安心して子どもがちゃんと生活というか、養育されるような環境を整えてあげるといったことだと思います。</p>
猪野塚委員	<p>9ページ(12)の児童育成支援拠点事業ですが、多様な課題を持っている家庭に対して、子どもさんとかと家族をアセスメントして、関係機関とのつなぎを行うことで児童の状況に応じた支援を包括的に提供するというところで、かなり大変な事業です。今後、国・県の情報を得て設定するとありますが、虐待防止等で読めない数字なのではないでしょうか。国のガイドラインだと虐待相談を受けた件数とか、児童相談所から北本市に関わりがある家であれば、そちらでやった方がサービスにつながるのか、そういう件数をみてくださいという言い方をしているかと思いますが。数字を出しにくいところでこういう表現になっているかと思いますが、虐待予防につながる</p>

発言者	発言内容・決定事項
青柳委員	<p>し、虐待でなくても要保護児童のご家庭につながりますので、是非、やっていただきたいです。</p> <p>今のお話に関係した周知としてお伝えしたいのですが、北本団地で、現在こども食堂をやっています。こども食堂というのはごはんが食べられない子どもにごはんを出すのがこども食堂だと思っていましたが、食を通して信頼関係ができて、何となく来ていた親子がぼろっとお話を出して、それを聞いて、それは大変だということで、こういうこともできるよという情報を提供したりしながら一緒に食べています。あと、学童というところでは、「この傷どうしたの?」という子がいて、実際に児童相談所にお世話になるケースもあるため、そういう早期発見が大事です。あと、不登校で学校に行けなくなった子を午前中に預かっています。学童保育の指定管理を超えてしまうので、独自事業でやっているということを委員の皆さんにお伝えしておきたかったです。何かありましたら、ぜひ、協力体制をとってやっていきたいのでよろしくをお願いします。</p>
新島委員	<p>新規事業の児童育成支援拠点事業で、関係機関とのつながりが出てきているが、児童の支援で、虐待とかもそうだが、気になる子、発達障害とか発達支援センターとの関係はどのようなのですか。今回の計画の中に障害児保育のこと、認定こども園で新しく配置するとあったが、放課後等デイサービスなどはこの計画には入ってこないのですか。</p>
猪野塚委員	<p>関係機関のつなぎを行うということであれば、この事業が立ち上がって動いていけば、当然、つなぎとして発達支援センターで教育的なことができますよとか、そういう話につなげられると思いますが、まず子どもさんのアセスメントをして何が必要かわかった段階で児童発達支援センターが入るのかなと思います。</p>

発言者	発言内容・決定事項
事務局	<p>児童発達支援センターや放課後等デイサービスの計画上の位置づけとして、障害児福祉計画の中で提供量が定められます。その中で障害のある子どもを含めて、どういう施策を展開するかが位置づけられていて、現状では、そういったところの記載は障害児福祉計画の中で関係機関と連携してやっていくというのがあります。子ども・子育て支援事業計画は提供体制の記載する計画なので、児童発達支援センターの量の見込みについての記載はしませんが、連携関係についての記載は実施事業の中に盛り込まれることになるかと思います。</p>
青柳委員	<p>こちらの資料3では社会増を勘案するとこういう結果になるという理解でよろしいですか。</p>
事務局	<p>その通りです。</p>
議長	<p>障害児の関係については障害児福祉計画で細かく書かれるが、それらとの連携が大事になります。他の地域の取組ですが、5歳児健診でわかったことが幼稚園や保育所の現場ではわからないです。健診の結果が、子どもたちが暮らしている場所での支援にどのようにつながっていくのかが問われています。健診の場では保健師や作業療法士、医師が関わるが、健診でこういうことがあったということが、現場の保育所や幼稚園の先生たちとの情報提供がうまく連携することが大事です。健診の結果、療育が必要だということだけではなくて、この子は療育よりもみんなの中で生活する方がよいこともあります。しかし、保護者も心配だから、熱心になるほど療育を受けさせたくて、割と全部そっちにいつてしまうという話を聞いて、そうかもしれないなと思う部分もあります。北本市も、療育だけとか、保育だけとかというのではなくて、色々な部署が一緒になってこどものことを考えていく体制になっていけば、動きやすいのかなと感じています。不登校とかも探っていくと、発達に障害のある子が躓いてしまうケースもあります。そういう子を5歳児健診で見つけて、その子を対象にした療育というだけではなく、その子が生活している場所で保護者、学校の先生、幼稚園の先生がみんな連携していけるとよいのではないかと考えます。それは実際には九州の方でされていて、結果的にそこでは不登校の子が</p>

発言者	発言内容・決定事項
青柳委員	<p>なくなつたという実績もあると聞いています。進んだ事例から学ぶ必要があるのかなかと感じています。</p> <p>学童保育では、県立騎西特別支援学校の先生を定期的にお招きして、気になるところをちょっとみていただいて、どういふ感じかを話していただいて、必要であれば、また深い話になったりして、もうちょっと休みましようみたいなことを定期的にしていきます。そういうのが行政で展開できるのかなと思います。</p>
成塚委員	<p>保護者からの立場になりますが、現状として連携がなく、保護者なりにそれぞれの相談先にその足で聞きに行きます。軽度の中でも特に度合いが低い場合は、福祉の対象ではありません。それがまた厄介で、福祉の支援を全く受けられない状況があります。普通の生活が送れないため、どこに頼ればいいのかというと、相談先として児童発達支援センター、フリースクール、子育て支援課の相談員や、教育委員会がありますが、全て保護者が聞きに行き、行った先々で全部同じ説明をすることになります。それを連携事業で一本化して、一か所に行けば、関係各所にアポをとってもらい、必要なサービスに繋がるというのは、保護者からしても必要だなと思っています。</p> <p>また、半分不登校という状態が続いてその後、運が良く担任の先生に恵まれると登校できたりします。LDの診断を受けて、文字の読み書きができないけど、知能に発達の遅れはない場合などは本当に厄介です。文字だけ、教科書が読めないだけという状況で、どこでどう相談すればいいのかを手探りで教育委員会、子育て支援課、フリースクールに手当たり次第連絡してということをやらなければなりません。</p> <p>どこかに1か所、ここに相談すれば大丈夫というのを市の施策でやっていただければ、保護者としても本当に助かると思います。</p>
事務局	<p>ご意見をいただいた5歳児健診ですが、国から各自治体に対して実施通知がありました。健診後、それぞれの特性に合わせて、医療、福祉などのフォローアップ体制を構築する必要があります。市では必要の認識はしていますので、実施</p>

発言者	発言内容・決定事項
議長	<p>に向け、体制整備等の検証をしていきます。</p> <p>また、情報の共有化で、前回の資料3を配った中で、今後、基本目標1でいじめ引きこもりや不登校対策、子育て支援サービスの充実、情報の充実相談体制の充実を入れています。連携については、リード文の中でそういうことが必要だと入れていくことは可能ですので、次回以降の会議で示すよう努めてまいります。</p> <p>議題(3)につきまして、他に質問や意見はございませんか。</p> <p>無いようでしたら、議題(4)その他です。委員の皆様から、本会議に関し、ご質問、ご意見等ございましたら、頂戴したいと存じますが、いかがでしょうか。</p>
各委員	<p>【特になし】</p>
議長	<p>事務局からは、何かありますか。</p>
事務局	<p>パブリック・コメントの実施について</p>
議長	<p>議題(4)につきまして、他に質問や意見はございませんか。</p> <p>無いようでしたら、本日の議題については、以上で終わりとなりますので、議事の進行を事務局に戻します。</p>
事務局	<p>4 閉会</p>

議事の内容・概要を記載し、その相違なきを証するためここに署名する。

令和6年11月18日

北本市子ども・子育て会議 会長

森田 満理子